

to you

1月 2018

No. 406 平成29年12月25日発行



発行 / (公財) 広島市文化財団 文化事業部 事業課
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMSアステールプラザ内
TEL082-244-0750 FAX082-245-0246
Eメール bunka@cf.city.hiroshima.jp
ホームページ <http://www.cf.city.hiroshima.jp/bunka/>
編集・印刷 / 大村印刷株式会社
表紙イラスト / 田中 聡

ひとこえ

日本人だからこそ 魂を揺さぶられる 細川俊夫の代表作「班女」

世界で最も上演されている日本のオペラ「班女」。新演出・Wキャストによる5年ぶり2度目の広島公演で「吉雄役」を務める声楽家の山岸玲音さんに、同作品の魅力などを伺いました。

■オペラ「班女」の見どころ、聴きどころ

細川作品の舞台は3年前のオペラ「リアの物語」で経験していますが、日本的感性に満ちた旋律、独特な音の世界観にDNAから揺さぶられるような不思議な感覚を覚えました。今回のオペラ「班女」も同じ能舞台での上演。余分な装飾が一切ない空間で、研ぎ澄まされた音や動きにより3人の男女の愛憎を浮き彫りにしていきます。世界中からオファーのあるレベルの高い作品だけに、夢と現実、狂気と正気が交錯する妖しくも美しい世界にきっと引き込まれるはずですよ。

■声楽家を志したきっかけ

両親とも声楽家ですが、息子の進路は自由放任で、幼稚園の先生になるつもりでした(笑)。学生時代はバンド活動に明け暮れて、声楽の勉強を本格的に始めたのが26才。両親のオペラの舞台を見て感動したのがきっかけです。声楽家としてはかなり異色の経歴ですよ。声楽やオペラは身ひとつで表現するアナログな世界で、嘘やごまかしが効かず、予定調和でないところがいい。人間性まで露わになりますから、ていねいな暮らしを心がけ、心技体を高い次元で調和させるよう努めています。

■3月の舞台「蝶々夫人」

実は私を声楽の道に導いたのが、両親が主役を演じたプッチーニの名作「蝶々夫人」なんです。両親とは既に何度も同じ舞台に立っていますが、この作品を観たときの鳥肌が立つような感動は今でも忘れられませんね。お客さまも絶対にハンカチが必要です(笑)。両親が主宰するオペラ団体HIOSの公演は、オペラの世界に没入できるような字幕を入れない原語上演。字幕の代わりにナレーションを入れており、今回は父が演出、母がナレーション、私はシャープレス役を演じます。

■今後の目標

現在は広島を拠点に、全国各地で舞台活動していますが、行政が後押ししてオペラ文化を育ててきた広島は恵まれた環境と実感します。広島オペラ文化のボトムアップや後進の育成につながるよう、外の空気を吸って得たことを還元していきたいですね。また、いつか細川作品を海外の舞台で演じてみたいとも思っています。



山岸玲音さん(やまぎし・れおん) 声楽家(バリトン)

三育学院短期大学英語学科、イメージフォーラム映像研究所卒。声楽を父・山岸靖に師事。2004年、「仮面舞踏会」でオペラデビュー。以後西日本を中心に多数のグランドオペラに出演し、主役から脇役まで深い役作りで演じ、各プロダクションから信頼を得る。近年では俳優として映画や演劇、朗読やナレーション等、表現と活動の幅を広げている。ひろしま国際オペラスタジオ(HIOS)実行委員。

オペラ

Hiroshima Happy New Ear Opera III 「班女」

読者プレゼント(P.15に詳細)

能の原作を三島由紀夫が現代化、広島出身の作曲家・細川俊夫が一幕のオペラとして完成させた「班女」。世界各地で上演されてきた日本オペラの名作を人気沸騰中の演出家・岩田達宗の演出で上演します。

時 / 2018年1月27日(土)、28日(日)14:00 ~ (13:30開場)

会 / JMSアステールプラザ中ホール(能舞台)

料 / S席4,500円、A席3,000円、車椅子席4,500円

※エディオン広島本店(サンモール1F)、福屋広島駅前店、中国新聞社読者広報部

JMSアステールプラザ、電子チケットぴあ、ローソンチケット、オンラインで販売中

問 / ひろしまオペラ・音楽推進委員会 TEL082-244-8000

☑naka-cs@cf.city.hiroshima.jp

